

第106回 平成19年 春季

東京大学 公開講座

「グローバルゼイション」

— 世界をかけめぐるヒト・モノ・カネ その光と影 —

講義日程

第1日 4月7日(土) グローバル化と国家・社会・経済	
13:30~13:45	入門・グローバルゼイション (開講の挨拶) 植田 和男 (企画委員長・経済学研究科長)
13:45~14:35	グローバル化する世界 — 歴史家の視点 — 高山 博 (人文社会系研究科・教授)
14:50~15:40	グローバルゼイションと法 石黒 一憲 (法学政治学研究科・教授)
15:55~16:45	差異と同一からみた国家、 市場および貨幣 柳田 辰雄 (新領域創成科学研究科・教授)
第2日 4月21日(土) グローバル化と食・農業	
13:30~14:20	グローバルゼイションと日本農業 鈴木 宣弘 (農学生命科学研究科・教授)
14:35~15:25	経済のグローバル化と 日本農業のゆくえ 本間 正義 (農学生命科学研究科・教授)
15:40~16:30	パネルディスカッション 「食・農業の未来」 司会 伊藤 元重 (経済学研究科・教授) パネリスト 生源寺真一 (農学生命科学研究科・教授) 鈴木 宣弘 (農学生命科学研究科・教授) 本間 正義 (農学生命科学研究科・教授)
第3日 5月12日(土) グローバル化と安全	
13:30~14:20	グローバルゼイションと 世界の新しい安全 山影 進 (総合文化研究科・教授)
14:35~15:35	グローバル化する大気汚染 近藤 豊 (先端科学技術研究センター・教授) 小林 和彦 (農学生命科学研究科・教授)
15:50~16:40	グローバルとローカルをつなぐ 水循環の科学 (工学系研究科・教授 地球観測データ統合連携研究機構 機構長) 小池 俊雄

第4日 5月19日(土) グローバル化と技術	
13:30~14:20	情報技術の グローバルスタンダードと国家戦略 坂村 健 (情報学環・教授)
14:35~15:25	グローバル化と日本の競争優位 — 現場発の視点で — 藤本 隆宏 (経済学研究科・教授 ものづくり経営研究センター センター長)
15:40~16:30	音楽文化の「グローバル化」? — 音響テクノロジー・音楽産業・地域文化 — 渡辺 裕 (人文社会系研究科・教授)
第5日 6月2日(土) グローバル化と人	
13:30~14:20	ヒトと動物の共通感染症の 流行とグローバルゼイション 吉川 泰弘 (農学生命科学研究科・教授)
14:35~15:25	新来外国人の子どもと日本の教育 恒吉 僚子 (教育学研究科・助教授)
15:40~16:30	グローバル化社会の高等教育 金子 元久 (教育学研究科長)
16:30~16:40	閉講の挨拶 小宮山 宏 (東京大学総長)

※やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合があります。ご了承下さい。

●会 場 東京大学大講堂[安田講堂]
(文京区・本郷キャンパス)

●対 象 成人一般・大学生・高校生

●定 員 1,000名

●受講料 全講義(5日間)一括申込 4,000円

選 択(1日) 1,000円

※高校生は
無料です。

東京大学の学生は無料

●申込受付 平成19年3月1日から

●申込方法 このパンフレットに記載の手順にしたがって
お申し込みください。

※当日参加も可能です。(満員の際はご容赦ください)

開講にあたって



現在、否応無しにいわゆる「グローバル化」が様々な次元で、世界的な規模で進行しています。モノが国境を越えて動くだけでなく、ヒト・カネも大規模に頻繁に、しかも多様な方向へ移動しています。日本から半導体製造装置が中国に輸出され、それを使って作られた半導体が日本に入ってきて、さらにそれを組み込んだ薄型テレビがアメリカに輸出されたりです。その裏ではお金が動いていますし、技術を教えるために、人が派遣されたりします。こうしたグローバル化には光と影がつきものです。グローバル化の流れに乗れた人には大きなプラスが発生しますが、取り残される人たちも出てきます。この講座は、グローバル化を多様な側面から光の面だけでなく、影の面も含めて、皆さんと一緒に考えてみようという試みです。

グローバル化はどのような原因で進行するのか、現在だけでなく過去にもそのような時期があったのだろうか。その中で、国家や法律などのような制度はどんな影響を受けるのだろうか。こうした全体像の議論が第1回のテーマです。第2回は、焦点をぐっと絞って、グローバル化の中での農業・食問題をとりあげます。グローバル化の光と影を考えるには格好のテーマといえましょう。第3回は、やはり皆さんの生活に密接に関連する水や空気がグローバル化によってどのような影響を受けるかを考えます。関連して、安全保障についても論じます。グローバル化は技術の進歩と密接な関連を持っています。これを多様な側面から考察するのが第4回です。最後に、第5回はグローバル化が教育を含めてわれわれ人間にどのような影響を及ぼすのかを見てみます。

この講座には、東京大学の多くの学部、研究センターの教員が講義・討論に参加します。今後も一段と進行するであろうグローバル化に適切に対処するためにも、皆さんと一緒にいろいろ考えてみたいと思います。

平成 19年 4月
第106回 東京大学公開講座企画委員会
委員長 **植田 和男**
(東京大学大学院経済学研究科長)

各講師講義内容の概略

4月7日(土) グローバル化と国家・社会・経済

13:45～14:35

グローバル化する世界 —歴史家の視点— 人文社会系研究科・教授 高山 博

グローバル化という言葉に要約される急激な変化は、時代を画する歴史の大きな分水嶺となるだろう。人間活動のほとんどあらゆる領域がその影響を受け、私たちの世界認識、活動の準拠枠は大きく変化することになる。このグローバル化を、歴史家の視点から大きな歴史の流れの中に位置づけ、この現象が世界の構造をどのように変化させ、日本社会や私たちの生きる社会環境をどのように変化させることになるかを考察する。



14:50～15:40

グローバル化と法 法学政治学研究科・教授 石黒 一憲

貿易・投資に関するWTO・OECDでの国際的なルールづくりの問題点、「反グローバリズム」と欧州市民社会、等につき、テレコム・金融・知的財産権等の各分野の例を含めて検討し、基本的な世界・社会の在り方を問い直す。



15:55～16:45

差異と同一からみた国家、市場および貨幣 新領域創成科学研究科・教授 柳田 辰雄

二十世紀の人類への偉大な教訓は「資本主義生産様式は市場機構なくしては機能せず、この市場機構は自由な政治制度としか共存できない」ということです。市場に貫徹する資本の論理と政治力学から二十一世紀の国際政治経済の動態を読み解きます。分析視座は国境を超える最適通貨圏と最大アイデンティティ圏で、これらの概念から西欧連合と共通通貨ユーロ、および東アジアの行方を考えます。



4月21日(土) グローバル化と食・農業

13:30~14:20

グローバル化と日本農業 農学生命科学研究科・教授 鈴木 宣弘

貿易自由化は我が国経済の発展に寄与したが、食料の海外依存度はカロリー・ベースで60%まで高まった。そして今、残された主要農産物の更なる市場開放が粗上り上がっている。規制緩和が産業を強くする側面は重要だが、圧倒的な土地条件の差は努力では埋められない。食料の殆どを海外に依存し、田園の失われた製造業とサービス業の国で、窒素過剰等の健康被害も深刻化するような大きな社会的コストを勘案せずに、狭義の効率のみを追求してよいか否か。今こそ「日本に農業はいらないのか」を、真剣に国民的に議論すべき時がきている。



14:35~15:25

経済のグローバル化と日本農業のゆくえ 農学生命科学研究科・教授 本間 正義

経済のグローバル化はモノばかりでなくヒトやカネ、サービスまでもが国境を越えて自由に行き来することを目指しています。農業も例外ではありません。WTOやFTAといった取り決めの中で一層の市場開放が求められ、さらには東アジア共同体構想なども議論されています。こうしたグローバル化の中で日本の農業はどのように変わっていくのでしょうか。これからの日本農業のゆくえを考えてみます。



15:40~16:30

パネルディスカッション「食・農業の未来」

農業のビジョンをどう描くか。食料をめぐる貿易政策はいかにあるべきか。農村の活性化に大切なのは何か。いずれも日本社会が熟慮のうえで選択すべき問題である。モンスーンアジアの日本、先進国としての日本、地球環境とともに歩む日本。さまざまなパースペクティブから食料・農業・農村の将来像を論じる。



司 会 経済学研究科・教授 伊藤 元重 パネリスト 農学生命科学研究科・教授 生源寺 眞一
農学生命科学研究科・教授 鈴木 宣弘 農学生命科学研究科・教授 本間 正義

5月12日(土) グローバル化と安全

13:30~14:20

グローバル化と世界の新しい安全 総合文化研究科・教授 山影 進

国際関係の観点からグローバル化を眺めると、主権国家という主要なエージェントの役割・機能の変容、そしてそれと並行して進行する国家間関係の変容が重要なポイントです。国際関係で、非国家組織や国境を跨いで社会を結びつけるさまざまなエージェントが重要になってきました。その中で、国家安全保障に集約していた世界の安全に関わる問題も大きい変容を見せています。国際関係の文脈では安全保障と訳されてきたセキュリティについて、グローバル化の中で考え直してみたいと思います。



14:35~15:35

グローバル化する大気汚染 先端科学技術研究センター・教授 近藤 豊 農学生命科学研究科・教授 小林 和彦

アジアでの急速な経済発展に伴って大気汚染物質の発生量が著しく増大し、大陸規模・地球規模での環境影響が懸念されるようになってきた。人間活動により生成される大気中の微粒子(エアロゾル)は、太陽光を吸収・散乱し、地球を加熱・冷却したり、雲や降雨にも影響を及ぼす。このように、エアロゾルは気候に影響を与え、地球温暖化予測の大きな不確定要素にもなっている。一方、汚染物質から光化学的に生成されるオゾンは、その強い酸化性により、農作物や樹木の生長を阻害し、世界の食料生産や自然生態系の保全に支障をきたすおそれがある。講演ではエアロゾル・オゾンによる気候や生態系への影響研究の最前線を紹介する。



15:50~16:40

グローバルとローカルをつなぐ水循環の科学 工学系研究科・教授 地球観測データ統合連携研究機構 機構長 小池 俊雄

自然現象と人間活動が相互に影響して生じる様々な水問題への危機感の高まりから、21世紀は「水の世紀」といわれています。飲み水の確保や洪水被害の軽減など、身近な水問題を解決に導くためにも、グローバルな水循環変動を考慮する必要があります。健全な水のガバナンスの確立のために、グローバルな水循環観測データと社会に必要なローカルな水情報をつなぐ地球観測データ統合の先端科学の貢献が期待されています。



5月19日(土) グローバル化と技術

13:30～14:20

情報技術のグローバルスタンダードと国家戦略 情報学環・教授 坂村 健

約25年間にわたるTRONプロジェクトの経験に基づき、技術の普及と標準化に関して論じる。膨大な軍事予算を背景に産業を育成し、標準化の主導権を確保する米国。優れた要素技術を生みながらも国家戦略に欠け、米国標準に追随し続ける日本。パソコンやインターネットといった過去の例を挙げながら、両者の違いを分析し、これからの日本が取るべき道を提唱する。



14:35～15:25

グローバル化と日本の競争優位 —現場発の視点で— 経済学研究科・教授 ものづくり経営研究センター センター長 藤本 隆宏

経済がグローバル化することの一つの意味は、国ごとと産業ごとの国際競争力の有無が顕在化することである。それは大昔から経済学の基本的なテーマであった。ところが実際にそうしてみると、伝統的な経済学では説明しにくい現象が多く出てきた。本講義では「日本は人工物である」というものづくり論の基本に戻り、現場発での日本の産業競争力を考えてみることにする。



15:40～16:30

音楽文化の「グローバル化」? —音響テクノロジー・音楽産業・地域文化— 人文社会系研究科・教授 渡辺 裕

レコードからCDへ、さらにネット配信へ…。音楽をめぐるテクノロジーや産業の発達とともに、世界各地の音楽文化は地球規模の一つのシステムへと組み込まれ、急速に変質している。しかし他方で、テクノロジーや産業の支配に背を向け、地域に根ざした文化として世界の一律化に抵抗する最後の砦としての音楽というイメージもまた根強い。この講義では、音楽とテクノロジーとの関わりの歴史を文化的視点から考察することを通して、人間と音楽の現在を読み解いてみよう。



6月2日(土) グローバル化と人

13:30～14:20

ヒトと動物の共通感染症の流行とグローバル化 農学生命科学研究科・教授 吉川 泰弘

世界貿易機構の自由貿易拡大路線は家畜・穀物だけでなくペットや野生動物の輸出入にも影響している。我が国には世界各地から食品のみならず種々の動物が輸入されており、ヒトと動物の共通感染症の侵入する危険性が指摘されてきた。BSE、O-157、トリインフルエンザのように侵入を受けた例もあるし、狂犬病、ペスト、サル痘など、いつ侵入されてもおかしくなかった例もある。感染症拡大の背景、人類への警告、制圧の筋道、今後の課題等について述べる。



14:35～15:25

新来外国人の子どもと日本の教育 教育学研究科・助教授 恒吉 僚子

日本社会の内なる国際化と共に、日本の教室において新来外国人の子どもが増え、また、多様化している。外国人労働者の家族、国際結婚家庭の子ども等、様々な形で日本の学校に在籍する彼らは、言語、民族、国籍、文化等、様々な局面でグローバル化の中の日本の教育のあり方について問題提起をしている。こうした子ども達の置かれた状況を通じて、グローバル時代の日本の教育課題について、具体的に考えていく。



15:40～16:30

グローバル化社会の高等教育 教育学研究科長 金子 元久

中世に始まった大学はもともと国境をこえた存在だったが、その後、近代大学は国民国家の教育システムの一部として発展してきた。21世紀にはいって、大学はふたたびグローバル化の中で変容しようとしている。一方で大学の中核となる知識がますます普遍化しようとしているからだけではない。グローバル化とは、同時に国際的な市場化の側面をもつのであり、高等教育はますますその流れに巻き込まれようとしているのだ。そうした状況を多角的に紹介する。



受講申込書 (事前申込用)

※コピー可

※ご記入いただいた情報は、個人情報に関する法律に基づき管理し、公開講座、講演会以外の目的には使用しません。

ふりがな 氏名		年齢	歳
		性別	男 女
学生の場合	学校名	高校	年
		大学	
現住所 連絡先	〒	—	
	電話	—	—
職業	会社員	公務員	教員
	自由業	自営業	学生
	高校生	主婦	無職
			その他
希望受講日に○を記入	申込締切日(必着)	受講料(高校生は無料)	合計受講料 ¥
4月 7日 (土)	3月28日 (水)	1,000円	
4月 21日 (土)	4月11日 (水)	1,000円	
5月 12日 (土)	4月25日 (水)	1,000円	
5月 19日 (土)	5月 9日 (水)	1,000円	
6月 2日 (土)	5月23日 (水)	1,000円	
全講義 (5日間)	最初の受講日の10日前	4,000円	

※締切日に間に合わない場合は、当日申し込みをご利用ください。

<今年から、お届けする払込用紙で、コンビニ・郵便局で簡単にお支払いができます。>

■郵送・FAXでの申し込みの場合

■インターネットでの申し込みの場合

- 「受講申込書」(この用紙・コピーでも可)に必要事項をご記入の上、下記申し込み先へ郵送またはFAXでお送りください。

- 東京大学の公開講座のページにアクセスし、必要事項を明記の上、メールでお申し込みください。
(東京大学ホームページ→社会人・一般の方へ→公開講座)

(3月1日受付開始)

↓ 高校生、東大生は1.で申し込み完了です。
↓ 当日学生証をお持ち下さい。

- 受講券と一体となった払込用紙を、ご記入いただいた住所に郵送します。
(申し込みから1~2週間程度でお手元に届きます。)

- お手元に届いた払込用紙を使って、お近くのコンビニまたは郵便局で受講料をお支払いください。(講義日の2日前までにお支払いください。)

- 当日は、払込用紙の受領書を受講券の裏に貼り付けて、会場へ持参してください。

●申し込み先

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総務部内
(財)東京大学総合研究会

FAX:03-3816-3913 HP: http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_j.html

(東京大学ホームページ→社会人・一般の方へ→公開講座)

お問い合わせ 03-3815-8345 (直通)

